大学教育学会ニュースレター

No.133　2026.09.30

一般社団法人大学教育学会　（*Japan Association for College and University Education*）
事務局：〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204
TEL/FAX：（042）707-8112
郵便振替口座：00210-9-102857　一般社団法人大学教育学会
E-mail:jacue.office@gmail.com　URL：http://jacue.org

大学教育学会 2026 年度課題研究集会

統一テーマ

生成 AI 時代に学生の主体性はどう育つのか

大学教育学会 2026 年度課題研究集会　実行委員会委員長

江本　理恵（北海道大学）

近年、生成 AI（以下、AI）をはじめとする人工知能技術の発展は、学習や研究のみならず、社会そのもののあり方を大きく変えつつあります。AI は文章作成や情報検索を支援するだけではなく、社会科学分野における調査の実施や質的データの分析、大規模データの整理・解釈、さらには研究成果の可視化などにも活用され、人間の知的活動の可能性を大きく広げています。これまで十分に扱うことが難しかった規模や量の情報から新たな知見を見出すことも可能になりつつあり、その影響は大学教育における学生の学び方や研究への向き合い方にも広く及んでいます。

一方、その活用のあり方は学生によって大きく異なります。AI を活用して新たな事業や活動を立ち上げる学生もいれば、与えられた課題を AI に丸投げしてしまう学生も少なくありません。AI がさまざまな知的作業を支援できるようになった現在だからこそ、「何を問うのか」「何を実現したいのか」「どう学ぶのか」を自ら考えて行動することの重要性は、いっそう高まっているのではないでしょうか。本課題研究シンポジウムでは、こうした状況を踏まえ、AI 時代において学生の主体性はいかに育まれるのかという問いについて、国際的な議論や研究知見、正課内外の教育実践や学習経験をもとに検討していきます。

基調講演には、OECD Education 2030 プロジェクトにおける「エージェンシー」の考え方を国内の初等・中等教育に広く紹介されてきた白井俊先生（東京科学大学）をお迎えし、主体性育成の課題と今後の展望について大学教育への示唆を踏まえながらご講演いただきます。

開催校シンポジウムでは、「正課内外における主体性育成の意義と課題」について議論します。主体的な学修態度を育む学修支援のあり方とは、どのようなものでしょうか。学生はどのような経験を通じて主体性を高め、それを社会の中で発揮しているのでしょうか。AI は学生の主体性にどのような影響を与えているのでしょうか。研究者、学生、起業家と共に、AI 時代における学生の主体性育成について検討します。

なお、12 月上旬の札幌は初雪や積雪となることもあります。ご来場の際は、防水・防滑・防寒性のある靴に加えて手袋やマフラーなどをご準備いただくと、快適にお過ごしいただけるかと思います。

大学教育学会 2026 年度課題研究集会

統一テーマ：　生成 AI 時代に学生の主体性はどう育つのか

期　日：　2026 年 12 月 5 日（土）～12 月 6 日（日）
形　式：　対面形式
会　場：　北海道大学　総合教育棟Ｅ棟１階～2 階 〒060-0817　北海道札幌市北区北 17 条西 8 丁目
主　催：　一般社団法人 大学教育学会

【スケジュール】
第１日（12 月 5 日）

09:00　09:30　12:00　12:10　12:30　13:20　14:30　14:40　17:10　18:00　19:30

受付	課題研究シンポジウムⅠ		開会行事	休憩	ポスターセッション		課題研究シンポジウムⅢ		情報交換会
	課題研究シンポジウムⅡ						課題研究シンポジウムⅣ		

第２日（12 月 6 日）

08:30　09:00　10:00　10:10　12:30　13:00

受付	基調講演		開催校シンポジウム	閉会行事

第１日　12 月 5 日（土）

09:00　受付開始（総合教育棟正面玄関前）
※ 09:00- 09:30 ポスター掲出作業時間
（Web 上の当初予定時間より 30 分遅くなります。掲出作業時間に遅れる場合は課題研究集会実行委員会にご連絡ください。）

09：30 ～ 12：00
【課題研究シンポジウムⅠ】　「高等教育における生成 AI 利用のガイドラインに関する研究」
研究代表者：田中 一孝（桜美林大学）
（総合教育棟 N1）

【課題研究シンポジウムⅡ】　「留学生増加による大学教育への影響と課題―学修・学生支援と受け入れ態勢を中心に―」
研究代表者：藤木 清（関西国際大学）
（総合教育棟 N2）

12：10 ～ 12：30　開会行事（総合教育棟 N1）
開催大学挨拶、学会会長挨拶

12：30 ～ 13：20　休憩

13：20 ～ 14：30　ポスターセッション（一覧は学会 Web サイト参照）

14：40 ～ 17：10
【課題研究シンポジウムⅢ】　「AI の有機的活用を目指す大学ライティング教育と支援体制に関する基礎的研究」
研究代表者：尹 智鉉（中央大学）
（総合教育棟 N1）

【課題研究シンポジウムⅣ】　「データリテラシー教養教育の効果検証と IR による教育改善モデルの構築」
研究代表者：田尻 慎太郎（神田外語大学）
（総合教育棟 N2）

18：00 ～ 19：30　情報交換会　（シュマッツ 札幌ステラプレイス店　※JR 札幌駅直結）
※ 情報交換の場として、飲料（アルコール含む）と軽食を用意いたします。
会場までは各自でご移動をお願い致します。（定員：100 名）

第 2 日　12 月 6 日（日）

08:30　受付開始（総合教育棟 スカイホール前）

09：00 ～ 10：00　基調講演（総合教育棟 スカイホール）
「OECD ラーニング・コンパスから考えるエージェンシーの可能性：大学教育への示唆」
講演者：白井 俊氏（東京科学大学 理事・副学長）

10：10 ～ 12：30　開催校シンポジウム　（総合教育棟 スカイホール）
テーマ:「正課内外における主体性育成の意義と課題」
登壇者: ①畑野 快氏（大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授）
「質問紙による『主体的学修態度』の測定は高等教育の質保証にどこまで応えられるか」

②清水 栄子氏（愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授）
「正課・正課外をつなぐアカデミック・アドバイジング」

③打矢 流星氏（北海道大学 学生／株式会社 SPORTERIA　代表取締役）
「正課外活動における主体性：サッカー部での取組みと学生起業」

④佐藤 傑氏（株式会社 Uravation 代表取締役）
「生成 AI を学びの武器に：大学在学中の実践から起業後まで」

総合司会: 江本 理恵（北海道大学 教育イノベーション機構 教授）
司会・モデレーター: 田中 孝平（北海道大学 教育イノベーション機構 講師）
西野 毅朗（京都橘大学 経営学部 准教授）

12：30 ～ 13：00　閉会行事　（総合教育棟 スカイホール）
学会副会長挨拶
次年度大会開催校・課題研究集会開催校挨拶

【課題研究シンポジウムⅠ】
「高等教育における生成 AI 利用のガイドラインに関する研究」
研究代表者：田中 一孝（桜美林大学）

シンポジウム概要：
本課題研究は、高等教育機関が生成 AI をどのように教育に取り入れるべきかを、(1)ガイドラインの調査とガバナンス、(2)分野別利用、(3)評価方法・学修成果、(4)高大接続の 4 つの観点から検討してきた。初年度（2024 年度）は国内 360 機関 384 件のガイドラインを分析して共通課題を整理し、2 年目（2025 年度）は全国 1,165 機関を対象とする実態調査（回答 113 機関）を実施した。調査からは、ガイドラインの策定が進む一方で「策定したガイドラインを実質的に機能させること」を困難に感じる機関が多いことがわかった。すなわち、ガイドラインの策定から、そこで課題として挙げられる学生の AI リテラシーの涵養、評価手法の改善、教職員への支援などを実際にどのように実行するかに論点が移りつつある。
最終年度（3 年目）を迎える本シンポジウムでは、3 年間の成果を総括するとともに、ガイドラインの実質化を支える「ハンドブック（仮称）」を提案する。すでに多くの機関がガイドラインを策定している一方で、それを学内でどのように運用し、日々の教育実践に結びつけていくかについては手がかりが乏しい。そこで課題研究では、次の一歩を設計することを助けるものとして「ハンドブック」の作成に着手している。
各報告では、全国調査、高大接続、学習評価、部局・分野別の方針という観点から、この 3 年間で得られた知見と、そこから導かれる実質化の道筋を報告する。コメンテーターとフロアとの議論を通じて、高等教育コミュニティが共有すべき指針のあり方を検討し、本課題研究全体を総括する。

企画者：
田中 一孝（桜美林大学）、松下 佳代（京都大学）、斎藤 有吾（新潟大学）、村上 正行（大阪大学）、渡邊 浩一（福井県立大学）、伊藤 通子（東京都市大学）、羽倉 尚人（東京都市大学）、平山 朋子（藍野大学）、杉山 芳生（藍野大学）、澁川 幸加（中央大学）、石上 敬子（近畿大学）、田中 孝平（北海道大学）、我喜屋 まり子（京都大学）

司会者：渡邊 浩一（福井県立大学）

発表者と内容：
趣旨説明：田中 一孝（桜美林大学）
報告１：ガイドラインの実質化を支える「ハンドブック」の概要
報告者：田中 一孝（桜美林大学）
報告２：ガイドラインをどう実質化するか
報告者：澁川 幸加（中央大学）
報告３：高大接続の観点からみた課題
報告者：田中 孝平（北海道大学）
報告４：生成 AI 時代の学習評価―新潟大学の取り組みから―
報告者：斎藤 有吾（新潟大学）
報告５：部局・分野別に生成 AI の方針を検討する
報告者：石上 敬子（近畿大学）
ディスカッション
コメンテーター：深堀 聰子（九州大学）

【課題研究シンポジウムⅡ】
「留学生増加による大学教育への影響と課題―学修・学生支援と受け入れ態勢を中心に―」
研究代表者：藤木 清（関西国際大学）
シンポジウム概要：

本課題研究では、我が国の高等教育機関で増加している外国人留学生の受入れ及び支援に関する課題を明らかにし、学内組織の連携・強化や、支援を求める側と供給する側との適合など、受入れ及び支援のあり方を明らかにすることを目的としている。

課題研究２年目となる今回のシンポジウムでは、４つの報告を行う。〈報告１〉では，留学生受入れ先進国であるヨーロッパ等での課題について報告する。〈報告２〉では、日本より急速に外国人留学生の受入れを進めている韓国での留学生受入れ支援の現状について報告し、日本における課題と比較する。〈報告３〉では、日本の大学を対象に実施した「外国人留学生の受け入れ体制と支援に関する大学機関調査」の結果について報告し、日本の大学における留学生受入れと支援に関する課題の特徴について明らかにする。〈報告４〉では、日本における留学生受入れの課題をより深く考えるため、移民政策に詳しい専門識者により、留学生及び高度人材に対する国内ニーズと期待される大学の役割について報告する。

４つの報告の後、ディスカッションを行う。

企画者：
藤木 清（関西国際大学）、関田 一彦（創価大学）、望月 雅光（関西国際大学）、塚原 修一（関西国際大学）、齊藤 貴浩（大阪大学）、我妻 鉄也（千葉大学）、丹羽 亮（札幌国際大学）

司会者：望月 雅光（関西国際大学）

発表者と内容（予定）：
報告１：留学生受入れ先進国における留学生受入れの現状と課題
報告者：我妻 鉄也（千葉大学）
報告２：韓国の大学における留学生受入れの現状と課題
報告者：塚原 修一（関西国際大学）
報告３：日本の大学における留学生受入れの現状と課題―「外国人留学生の受け入れ体制と支援に関する大学機関調査」の結果から―
報告者：藤木 清（関西国際大学）
報告４：留学生、高度人材に対する国内ニーズと大学の役割
報告者：毛受 敏浩（外国人雇用協議会顧問／関西国際大学・非会員）
ディスカッションとコメント
モデレーター：関田 一彦（創価大学）
指定討論者：山田 礼子（桜美林大学）、青山 貴子（山梨学院大学）
登壇者：各報告者

【課題研究シンポジウムⅢ】
「AI の有機的活用を目指す大学ライティング教育と支援体制に関する基礎的研究」
研究代表者：尹 智鉉（中央大学）

シンポジウム概要：

生成 AI の急速な普及は、大学教育における「書く」という行為の本質的な問い直しを迫っている。国内外の高等教育機関では、生成 AI の教育的活用に関するガイドラインの整備が進められている一方で、教育現場においてそれらを実践へと結び付ける具体的な教育方法や支援体制は、いまだ十分に確立されていない。

本課題研究では、このような現状を踏まえ、大学ライティング教育における生成 AI の有機的活用とその支援の在り方について、実践的・理論的双方の観点から検討を進めてきた。また、生成 AI の利活用に伴う倫理的課題にも着目し、大学ライティング教育・支援に関わる教育者、支援者、学習者の三者の視点から、それぞれの役割や相互関係を踏まえた生成 AI 利活用の可能性と課題について考察してきた。

課題研究の最終年度に実施する本シンポジウムでは、これまで蓄積してきた研究成果を基盤として、「生成 AI と共に創る、新たな大学ライティング教育・支援のための学術エコシステム（Academic Ecosystem）」

をテーマに掲げる。そして、生成 AI を包摂した大学ライティング教育の実践、および正課教育とライティングセンター等による正課外支援との連携の在り方を軸に、教育者、支援者、学習者が相互に連関しながら持続的に発展する「学術エコシステム」の構築可能性について検討する。

生成 AI 時代における大学ライティング教育・支援は、個々の授業改善や支援実践にとどまる課題ではなく、大学全体の教育理念、学習支援体制、さらには学術コミュニティの在り方を含めた、教育システム全体の再構築を求めるものである。本シンポジウムでは、生成 AI の利用可否や個別の活用方法を論じるにとどまらず、教育者、支援者、学習者、大学組織が相互に連携し、それぞれの知見や実践を循環させながら発展させていく「学術エコシステム」構築の可能性について議論し、その展望を示したい。

企画者：
尹 智鉉（中央大学）、高橋 薫（創価大学）、福山 佑樹（関西学院大学）、岩﨑 千晶（関西大学）

司会者：尹 智鉉（中央大学）

発表者と内容：
趣旨説明：生成 AI 時代の大学ライティング教育・支援：学術エコシステムの構築に向けて
報告者：尹 智鉉（中央大学）
報告１：生成 AI 時代に「書き手」はどこにいるのか：支援現場と著者性をめぐる論点
報告者：福山 佑樹（関西学院大学）
報告２：禁止からデザインへ：アカデミックインテグリティを基盤とする生成 AI 時代のライティング教育
報告者：高橋 薫（創価大学）
報告３：ライティングセンターにおける生成 AI 対応の三層アプローチ：方針・学生教育・支援者研修を考える
報告者：岩﨑 千晶（関西大学）
フロアとの討議：尹 智鉉（中央大学）
総括：井下 千以子（桜美林大学）

【課題研究シンポジウムⅣ】
「データリテラシー教養教育の効果検証と IR による教育改善モデルの構築」
研究代表者：田尻 慎太郎（神田外語大学）

シンポジウム概要：
文部科学省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（MDASH）」の本格運用に伴い、データリテラシー教育を全学的に提供する大学が急増している。データリテラシーが現代の教養（リベラルアーツ）として位置づけられつつある一方、各大学のカリキュラムや学生背景の多様化が進んでおり、学習成果を大学間で比較可能な共通尺度で測定・評価する手法の確立が求められている。また、これらのエビデンスを単発の評価にとどめず、教学 IR のサイクルに組み込み、第 4 期認証評価でも重視される「学生参画」の観点を含めた継続的な教育改善モデルを構築することが求められている。

本課題研究の第 1 年次（2026 年度）に開催する本シンポジウムでは、本研究グループが開発を進める「データリテラシー自己効力感尺度（DLSS）」の尺度設計の考え方と、データサイエンス学習の動機づけに関して参照した理論を紹介するとともに、参画 4 大学で実施したプレ・ポスト調査のデータをまとめた初期的な分析結果について中間報告を行う。さらに、学生が関与する教学 IR モデルの構築に向け、国内外の文献調査や先進校へのヒアリングから得られた知見を共有し、今後のデータリテラシー教育の質保証と効果的な教育改善のあり方について議論を深めたい。

なお、本課題研究は、多様な設置形態の大学に所属するメンバーからなる研究組織のもと推進する。第 1 年次（2026 年度）には尺度開発、プレ・ポスト調査の実施、および IR モデルの検討・設計を行う。第 2 年次（2027 年度）には対象大学を拡大した横断的な本調査を実施し、ノーコード／ローコードツール活

用群との比較等による効果検証と IR モデルの精緻化を進める。第 3 年次（2028 年度）には総合分析と提言、教育改善 IR モデルの展開を計画している。最終成果として、開発した DLSS 尺度や活用ガイドライン等をオープンアクセスで広く公開し、他大学でも活用できる実践的なフレームワークを提供する。

企画者：
田尻 慎太郎（神田外語大学）、杉原 亨（淑徳大学）、井芹 俊太郎（神田外語大学）、大川内 隆朗（日本大学）、椿本 弥生（電気通信大学）、近藤 伸彦（東京都立大学）、和嶋 雄一郎（北陸大学）、白鳥 成彦（東京都市大学）、田中 絵里子（日本大学）

司会者：杉原 亨（淑徳大学）

発表者と内容：
報告１：データリテラシー教養教育の現状と新しいデータサイエンス教育の動向
報告者：田尻 慎太郎（神田外語大学）
報告２：データリテラシー自己効力感尺度（DLSS）の設計過程と学習動機づけに関する理論的観点
報告者：井芹 俊太郎（神田外語大学）
報告３：4 大学におけるプレ・ポスト調査の中間発表—初期データに基づく教育効果検証—
報告者：大川内 隆朗（日本大学）
報告４：学生参画型教学 IR モデルの構築に向けた現状と課題
報告者：杉原 亨（淑徳大学）
コメントとディスカッション
コメンテーター・モデレーター：西出 崇（奈良女子大学）

＜課題研究集会参加申込要領＞

1. 参加申込について

大学教育学会 2026 年度課題研究集会の参加手続き等に関して、大学教育学会 学会業務取扱センターに業務を委託しております。

学会ウェブサイト掲載の参加申込用 URL から**参加登録を行い、オンライン決済（クレジット払い）にて参加費をお支払いください。**

なお、準備の都合上、ご参加の皆様には早期申込にご協力をお願いします。

早期参加申込・参加費払込期間：2026 年 10 月 13 日（火）～ 11 月 13 日（金）17：00 までとなります。

【参加費用一覧】

費　用　項　目		早期申込（11 月 13 日（金）まで）	一般申込（11 月 16 日（月）から）
		クレジット払い	クレジット払い
参加費	会員・一般	6,000 円	7,000 円
	学　　生	2,000 円	3,000 円
情報交換会費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学　　生	2,000 円	2,000 円

・払い込みされた参加費等は、理由を問わず返却いたしません。
・情報交換会は、会場の都合により、参加人数制限がございます（定員：100名）。先着順で参加可能人数に到達しだい打ち切りますので、お早めにお申し込みください。
・＜団体会員について＞　団体会員の ID で参加登録をする場合、1名しか申し込むことができません。
団体会員ご所属の複数名が参加をご希望の場合は、学会業務取扱センター（g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp）までご連絡ください。追加で大会参加者限定の ID を発行します。
そちらで参加申込をしてください。（対応可能締切日時：11 月 6 日 17：00まで）
・お支払は、基本クレジットカードを利用したオンライン決済でお願い致します。
・＜クレジットカードが利用できない場合＞は、学会業務取扱センター（g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp）迄お問合せください。振込でのお支払いに対応いたします。（対応可能締切日時：11 月 6 日 17：00まで）
また、参加登録者名義以外での入金（公費払い含む）の場合、別途学会業務取扱センター（g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp）まで、送金日・入金額・振込名義・明細等を必ずご連絡ください。

2. クローク

両日とも会場にはクロークを設置いたしません。

当日は積雪により足元が悪くなることが予想されます。参加者の皆様の安全確保のため、大きなお荷物は、宿泊先のホテルにお預けいただくか、札幌駅構内のコインロッカー等をご利用ください。なお、駅構内のコインロッカーは数に限りがありますので、あらかじめご承知おきください。

3. 昼食について

昼食については、各自でご準備いただくか、近隣のコンビニエンスストアや飲食店等をご利用ください。なお、会場近くの大学生協売店および食堂は土曜日・日曜日は営業しておりません。

4. 会場内でのネットワーク環境について

当日は「eduram」をご利用いただけます。

ゲスト用 Wi-Fi 等の準備はございませんのでご承知おきください。

5. 課題研究集会実行委員会事務局（大会本部）

研究集会の実行委員会事務局は、情報教育館 共用多目的教室（2）に設置します。何か問題が生じたときは実行委員会事務局までご連絡ください。

6. 学会事務局

学会事務局ブースは、総合教育棟エントランスホール付近に開設いたします。

7. 託児サービスの利用について

後日ウェブサイト上にてご案内しますので、ウェブサイトをご確認の上、10 月 30 日までにお申し込みください。

8. ポスターセッションについて

対面でのポスターセッションとし、12 月 5 日（土）13:20～14:30 に実施します。各発表者は、原則として当日朝の掲出作業時間（9:00～9:30）にポスターの掲出を終えてください。掲出作業時間に遅れる場合は、課題研究集会実行委員会にご連絡ください。

パネルの掲出サイズは縦 210cm×横 90cm で、掲出用のピンは会場校で用意します。各発表には 30 分間のコアタイム（詳細は学会 Web サイト参照）を設定しますが、コアタイムの時間帯以外に説明をしていただいて差し支えありません。

14:30 になりましたら、発表者自身でポスターを回収してください。なお、会場撤収作業のため 15:30 以降に回収されていないポスターは、実行委員会側で処分させていただきますのでご注意ください。

会場都合により、今年度は例年に比べてポスターセッションの時間が短くなっています。参加者の皆様におかれましては、休憩時間等を利用して事前にポスターをご覧いただくなど、限られた時間を有効にご活用ください。

9. JACUE スクール・ブース出展について

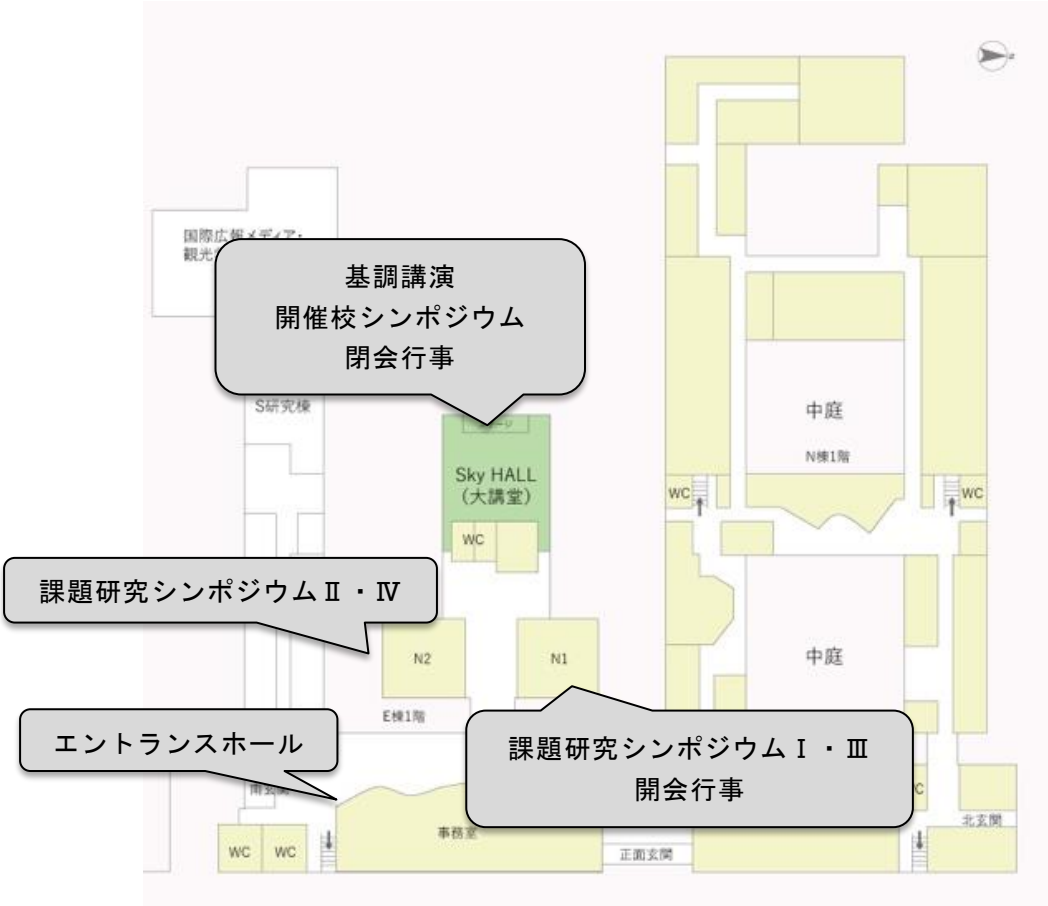
大学教育研究力向上委員会では、12 月 5 日ポスターセッションの時間帯（13:20～14:30）に同会場（総合教育棟 1 階エントランスホール）にて JACUE スクールのブースを出展します。

対面による JACUE スクール修了生同士のネットワーキングや、スクール後のフォローアップの機会にできればと思います。JACUE スクール修了生、JACUE スクールへの参加に興味のある方はお気軽にお立ち寄りください。当委員会の委員数名がブースでお待ちしております。

なお、ブースへのご参加は無料で事前予約も不要ですが、課題研究集会への参加申込は必要となります。

10. 課題研究集会実行委員会の連絡先：jacue.kadai2026@gmail.com

11. 大会会場案内図（詳細は https://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/aas/access/）



12. 宿泊ホテルについて

各自ご手配下さい。

13. 大会会場へのアクセス

公共交通機関をご利用ください。

○ JR をご利用の場合

JR「札幌駅」下車、徒歩 23 分

○ 地下鉄をご利用の場合

市営交通・地下鉄南北線
「北 12 条駅」下車、徒歩 15 分
市営交通・地下鉄南北線
「北 18 条駅」下車、徒歩 8 分

日本高等教育学会・大学教育学会合同シンポジウム開催のお知らせ

「これからの大学像と人材育成」
―学術界・産業界・政策立案者による公開討議―

18 歳人口の急激な減少をはじめ、学生層の多様化、労働市場における人材需要の変化、大学院教育やリスキリングへの期待の高まりなど、日本の高等教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。こうした状況のなか、大学には、社会の変化に対応するだけでなく、社会的・学術的・公共的価値を備えた人材を育成し、将来社会の在り方を主体的に構想していく役割が、これまで以上に求められています。

本シンポジウムでは、産業界、政策立案、大学教育、高等教育研究の各分野を代表する 4 名の登壇者が一堂に会し、それぞれの立場から、これからの大学像と人材育成の在り方について議論します。

【開催概要】

日時：2026 年 11 月 9 日（月）16 時 00 分～18 時 30 分
会場：KDDI ホール
　　東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI 大手町ビル 2 階（大手町駅直結）
開催方法：対面開催
定員：120 名

＜登壇者＞
日色　保氏：経済同友会副代表幹事・教育革新委員会委員長／
　　ウォルト・ディズニー・ジャパン代表取締役社長
合田哲雄氏：文部科学省高等教育局長
吉田　文氏：日本高等教育学会会長／早稲田大学教育・総合科学学術院教授
松下佳代氏：大学教育学会会長／京都芸術大学学習支援・教育開発センター長・教授、
　　京都大学名誉教授
＜モデレーター＞
濱名　篤氏：日本高等教育学会副会長・大学教育学会理事／関西国際大学学長

当日は、「高等教育に対する進学需要をどのように捉えるか」「大学院進学・リスキリングをどのように拡大するか」「留学生・社会人受入れの意義をどのように再構築するか」「大学教育の質保証を労働市場とどのように共有するか」を主な論点として、率直な意見交換を行います。

本シンポジウムは対面開催を基本とし、異なる立場からの発言をその場で受け止め、議論の展開を共有できることは、対面参加ならではの大きな意義です。学会員の皆様には、ぜひ会場にお越しいただき、これからの大学と人材育成をめぐる議論に直接ご参加くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

なお、当日の模様は、後日、両学会のウェブサイトから動画配信する予定です。

参加申込：下記の QR コードからお申し込みください。

主催：日本高等教育学会・大学教育学会
後援：文部科学省

＝理事会便り＝

2026 年 9 月 5 日に 2026 年度第 2 回理事会が開催されました。
詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されます。

● 2026年度第48回大会実施報告

2026 年 6 月 6 日(土)、7 日(日)の 2 日間、東京都心から西に約 40km 離れた緑豊かな八王子市にキャンパスのある創価大学にて対面形式のみで開催されました。中央教育棟、ディスカバリーホール、ニューロワール食堂といった施設をご提供頂き、周到なご準備の中、基調講演、シンポジウムは大変盛況で、その後開催された情報交換会の充実ぶりは目を見張る程でしたが、こちらは八王子市からの助成金を受けることができたことが大きかったようです。ラウンドテーブル報告や自由研究発表でも熱い議論が交わされました。創価大学関係者及びご参加いただきました皆様を含め今大会に関わっていただきました全ての方々に感謝申し上げます。

● 2026年度課題研究集会について

2026年度課題研究集会は、2026年12月5日（土）・6日（日）の2日間、北海道大学札幌キャンパスにて対面形式での開催を予定しております。詳細をご確認頂き、多くの皆様の参加申込をお待ちしております。また12月初めの北海道では降雪も予想されますので、防寒具（特にスノーブーツ等の雪道に対応した靴）等の入念なご準備をお願い致します。

● 日本高等教育学会との合同シンポジウム開催について

テーマ：「これからの大学像と人材育成」
―学術界・産業界・政策立案者による公開討議―
日時：2026年11月8日（月）16:00～18:30
会場：KDDI ホール（東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI 大手町ビル 2 階）
＊都営三田線・千代田線・半蔵門線・東西線：大手町駅 C 1 出口直結

登壇者：日色　保氏：経済同友会副代表幹事・教育革新委員会委員長／
ウォルト・ディズニー・ジャパン代表取締役社長
合田哲雄氏：文部科学省高等教育局長
吉田　文氏：日本高等教育学会会長／早稲田大学教育・総合科学学術院教授
松下佳代氏：大学教育学会会長／京都芸術大学学習支援・教育開発センター長・教授、
京都大学名誉教授
モデレーター：濱名　篤氏：日本高等教育学会副会長・大学教育学会理事／関西国際大学学長

● 2027年度新規課題研究の募集について

2027年度新規課題研究は、2件募集予定です。募集期間は10月初旬～12月下旬の予定です。応募開始の際は一斉メールでの配信、大学教育学会ウェブサイト上でもお知らせいたします。

● 後援・会員への広報協力依頼事業2件について

① アジア高等教育学会（HERA）2028 大会
日程：2028 年 3 月 19 日（日）・20 日（月・祝）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
② ICED2028 大阪大会
日程：2028 年 9 月5日（火）、9 月 6 日（水）～8日（金）
会場：近畿大学　東大阪キャンパス

●「ALEC2026」韓国ソウル大学での開催について

日時：2026年10月23日（金） 10：30～17：50 （10：00受付、18：00～懇親会）
場所：韓国・ソウル国立大学 （ソウル特別市冠岳区）
テーマ：Today and Tomorrow of East Asian Liberal Education（東アジア教育の現在と未来）
基調講演：吉田文氏（早稲田大学教授、日本高等教育学会会長）
講演者：俣野秀典氏（高知大学准教授）
「地域での経験はいかにして学びになるか－高知大学地域協働学部の事例から－」
コメンテーター：野田文香氏（大学改革支援・学位授与機構教授）
セッション・チェア：林透（金沢大学教授） 他

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

2026年度会費・2025年度迄の会費未納分を含めた会費請求書・郵便払込取扱票については、9月18日付け郵送にて送付しております。また、準備の都合上、既に納付済みの方にも請求書が送付されている場合がございますが、ご容赦いただきますようお願いいたします。会費納入状況については、学会ウェブサイト内の会員管理システムにあります「会費納付状況」からご自身で確認可能です。

納入は、下記オンライン決済をご利用いただけます。また、従来の郵便振替口座をご利用いただくことも可能です。領収書につきましては、下記オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からご入金される場合は、以下の**大学教育学会 学会業務取扱センター**までその旨ご連絡下さい。（例えば○○の○年度の会費を○月○日付で○○銀行より振込予定である等）

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】
大学教育学会 学会業務取扱センター
TEL:03-5981-9824、 FAX:03-5981-9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。
学会ウェブサイト内の会員管理システムにあります「会費納付状況」からご自身で納入状況を確認可能です。
また、学会誌への投稿、大会及び課題研究集会での発表申込みは、申込時の当該年度分までの会費が納入済みであることが条件となっております。納入忘れにご注意下さい。

● 年会費のクレジットカード決済のご案内

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。
同時に領収書のオンライン発行も可能となっておりますので、ご利用ください。
学会ウェブサイト内の会員管理システムにある「オンラインクレジット決済システム」をクリックしてください。

＜オンライン決済の場合＞
① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
② 「会費納付状況」をクリックしますと、未納分の会費請求金額が赤色で示されますので、ご確認の上、「年会費のクレジット決済」を選択してください。
＊過年度分の会費が未納の場合、未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度ずつの決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。
＊クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社に送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに

蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。

＜領収書のオンライン発行の手順＞

① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員 ID とパスワードを入力し、ログインします。
② 「会費納付状況」をクリックします。
③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
④ 領収書発行の画面の指示に従ってください。

● オンライン検索サービスについて

従来の会員名簿に代わり、会員検索が可能なサービスです。利用時にID(会員番号)・PWの入力が必要です。検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目（基本情報）は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索（部分検索）可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員ご本人様の選択項目になります。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信（メールマガジン）、2026年度からはニュースレターの発行時、またその他ご連絡・ご案内を一斉メールで配信しております。

しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて jacue.office@ml.gakkai.ne.jpより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員管理システム」内の「会員情報の照会・更新」からご自身で変更をお願いいたします。ID（会員番号）・PWを紛失された方は、大学教育学会　学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、ポスト投函のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い

探究している資料は、以下の通りです。下記学会事務局まで「着払い」でお送りください。

第 1 回大会発表要旨集録（1979 年度）
課題研究集会要旨集録（1981,1985～1987, 1989,1992,1993 年度）

一般社団法人
大学教育学会

【学会事務局】

〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204
Tel/ Fax: 042-707-8112
E-mail:jacue.office@gmail.com

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】
大学教育学会　学会業務取扱センター

〒170-0013　東京都豊島区東池袋2丁目39−2大住ビル401号室
TEL:03-5981-9824、 FAX:03-5981-9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp